

## 2014 臨床実習入門

- 次のうち正しいのはどれか。
  - BMI (Body Mass Index) 26 以上を肥満としている。 × : 25 以上
  - 肥満度 25%以上を肥満としている。
  - 肥満によりインスリン抵抗性が増大し、耐糖能異常を呈することがある。
  - 肥満は高コレステロール血症との関連性が高く、中性脂肪との関連性は低い。
  - 肥満では高尿酸血症、多血症、睡眠時無呼吸症候群合併が最大の問題である。
- 下記の肥満の鑑別診断に必要な検査、診察項目であるが、当てはまらないのはどれか。
  - 頭部 MRI
  - 睡眠時無呼吸の有無
  - 腹部 CT
  - 薬剤服用歴
  - 身長、体重測定
- 体重減少が摂食量の低下によらないものはどれか。
  - うつ病
  - 食道癌
  - 消化性潰瘍
  - アルコール依存
  - 甲状腺機能亢進症
- 脱水による急性腎不全でみられるのはどれか。
  - 頻脈
  - 血圧上昇
  - 喘鳴
  - 血尿
  - 貧血
- 脱水の徴候として特徴的なのはどれか。(15、14)
  - 口渇
  - 徐脈
  - 血圧上昇
  - 呼吸困難
  - チアノーゼ

問6、7 次の文を読み、6、7の問いに答えよ。

76歳の女性。頭痛、嘔気および嘔吐を訴え、起き上がれないため搬入された。現病歴:定時に起床しないため家族が訪室したところ、「つらくて起きられない」と訴えた。昨夜は通常通り就寝した。  
既往歴:30歳から高血圧で治療している。生活歴、家族歴:特記すべき事なし。  
現症:意識は清明、身長150cm、体重38kg、体温35.7°C、脈拍120/分 整、血圧86/64mmHg、眼瞼結膜に異常認めない。顔色は不良で、苦渋顔貌、眼を閉じて側臥位をとっている。前胸部で皮膚ツルゴール低下し、口腔内は乾燥している。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部はやや膨隆し、臍周囲に圧痛がある。打診では鼓音を認める。

- 初期対応として適切なのはどれか。
  - 輸液
  - 輸血
  - 抗菌薬投与
  - 利尿薬投与
  - 消炎鎮痛剤投与
- 初期の検査で適切でないのはどれか。
  - 心電図
  - 頭部 MRI
  - 胸部 X線検査
  - 腹部 X線検査
  - 上部消化器内視鏡検査
- 浮腫の原因とならないのはどれか。
  - β遮断薬
  - ビタミン B1 薬
  - 卵胞ホルモン薬
  - カルシウム拮抗薬
  - 非ステロイド性抗炎症薬
- 下腿浮腫が通常みられないのはどれか。
  - 心不全
  - 急性腎炎
  - 肝硬変
  - 甲状腺機能低下症
  - 痛風
- 不明熱の原因となりにくいのはどれか。
  - 細菌性心内膜炎
  - ネフローゼ症候群
  - 全身性エリテマトーデス
  - 白血病
  - 成人 Still 病

11. 発熱患者の診療において誤っているのはどれか。
- 海外渡航歴を聴取する
  - 高齢者は易感染宿主と考える
  - 糖尿病患者は易感染宿主と考える
  - 悪寒戦慄のある時は血液培養を行う
  - 白血球が減少していれば重篤な感染症を否定できる
12. 51歳の男性。数日続く高熱と悪寒とを主訴に来院した。2週間前に臀部膿瘍の切開排膿を受けた。体温 39.5°C、呼吸数 221 分、脈拍 96/分 整、指先に有痛性の小結節を認める。呼吸音は正常。尿所見：蛋白（－）、糖（－）、潜血 1+。血液所見：RBC 487 万、Hb15.8g/dl、WBC 12,800（好中球 76%）。診断に重要な身体所見はどれか。
- 心雑音
  - 背部巧打痛
  - 腸蠕動低下
  - 肝下縁触知
  - 切開部硬結
13. 黄疸を起こしにくいのはどれか。
- 脂肪肝
  - 肝硬変
  - 肝癌
  - 胆管炎
  - 膵癌
14. 症候とそのとらえ方の組み合わせで誤っているのはどれか。
- ショック — 脈拍測定
  - 脱水 — 舌の観察
  - 浮腫 — 脛骨前面圧迫
  - 黄疸 — 眼球結膜の観察
  - チアノーゼ — 眼瞼結膜の観察
15. 閉塞性黄疸患者で尿中に増加するものはどれか。
- 蛋白
  - 糖
  - ウロビリノーゲン
  - 抱合型ビリルビン
  - 非抱合型ビリルビン
16. 閉塞性黄疸による症候でないのはどれか。
- 皮膚掻痒
  - 眼球結膜黄染
  - 腹部膨満
  - 濃褐色尿
  - 灰白色便
17. 56歳の男性。5日前に皮膚の黄染に気がつき、徐々に増強してきたため来院した。尿の色が濃くなり、便の色は薄くなったが、腹痛と発熱は認めない。腹部は平坦、軟で、肝、脾を触知しない。
- 腹部X線検査
  - 静脈性胆道造影
  - 腹部超音波検査
  - 上部消化管内視鏡検査
  - 肝生検
18. 意識障害を起こすのはどれか。
- 痛風
  - 糖尿病
  - 骨粗鬆症
  - 変形性関節症
  - 前立腺肥大症
19. 意識障害の血液検査として適切でないのはどれか。
- アンモニア
  - Ca
  - リパーゼ
  - グルコース
  - BUN
20. 失神発作を起こしにくいのはどれか。
- 起立性低血圧
  - 大動脈弁狭窄症
  - 僧帽弁閉鎖不全症
  - 洞機能不全症候群
  - 肥大型閉塞性心筋症
21. 失神をきたさない疾患はどれか。
- もやもや病
  - 睡眠時無呼吸症候群
  - Adams-Strokes 症候群
  - 過換気症候群
  - 起立性低血圧

問 22、23 次の文を読み、22、23 の問いに答えよ。

25 歳の男性。意識消失発作を主訴に来院した。現病歴：受診日の早朝、車を運転中に便意を自覚した。排便したかったが、我慢をして運転を続けた。ガソリンスタンドに車を止めて、車外に一步踏み出たところで、発汗を認めた。そして頭から血が引いてゆく感じがして気が遠くなり、その場にゆっくりと倒れ込んだ。数秒後に意識は戻り、怪我はなく、歩行することができた。

既往歴：特記すべき事なし。

現症：身長 170 cm、体重 65kg、体温 36.5°C、呼吸数 141 分、脈拍 80/分 整、血圧 100/80 mmHg、眼瞼結膜に貧血はなし。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経学的に異常所見を認めない。

22. この患者の診断にもっとも有用なものはどれか。

- a. 病歴                      b. 身体診察                      c. 血液検査                      d. 胸部 X 線検査                      e. 頭部 CT

23. このような発作を起こしにくい状況はどれか。

- a. HT                      b. 排尿                      c. 嘔吐                      d. 運動                      e. 疼痛

24. 40 歳の男性。通勤途中の電車の中で、突然、周囲がグルグル回って見えるようになり、体のバランスが保てなくなった。更に吐き気、耳鳴りおよび耳閉塞感も出現したので、救急車で来院した。今回は 4 回目の発作で意識消失はなし。この患者にみられる身体徴候はどれか。

- a. 発熱                      b. けいれん                      c. 眼振                      d. 咳                      e. 過呼吸

22. めまいに耳鳴りと難聴を随伴しない疾患はどれか。

- a. ループ利尿薬による薬物中毒                      b. 突発性難聴                      c. 小脳橋角部腫瘍  
d. メニエル病                      e. 良性発作性頭位めまい症

26. 次のうち耳鳴りを伴わないのはどれか。

- a. 耳硬化症                      b. 前庭神経炎                      c. 音響外傷                      d. メニエル病                      e. 聴神経腫瘍

27. 喀痰について正しいものはどれか。

- a. 心不全では喀痰はみられない。  
b. 気管分泌物は健常人ではほとんどみられない。  
c. 急性経過をとる際には気道系の細菌感染が多い。  
d. 肺胞上皮癌では、喀痰の排出は少量である。  
e. 気管支拡張症では、喀痰の排出は少量である。

28. 咳を伴わないものはどれか。

- a. 胸膜炎                      b. 気管支喘息                      c. 過換気症候群                      d. 慢性副鼻腔炎                      e. うっ血性心不全

26. 疾患と徴候の組み合わせで誤っているのはどれか。(15、14)

- a. 糖尿病性ケトアシドーシス                      — Kussmaul 大呼吸  
b. 喘息発作                      — 呼気性呼吸困難  
c. Pickwick 病                      — 睡眠時無呼吸  
d. 過換気症候群                      — テタニー  
e. 自然気胸                      — 患側声音振盪の亢進

30. 62 歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。1 ヶ月前に呼吸困難が出現し、増強してきた。喫煙は 30 本/日を 40 年間、体温 36.4°C、呼吸数 28/分、脈拍 104/分 整、血圧 132/86mmHg、心音に異常を認めない。呼吸時に胸郭の動きに左右差を認める。左胸部の打診は濁音を呈し、聴診では左肺の呼吸音が減弱している。考えられるのはどれか。

- a. 気胸                      b. 肺炎                      c. 肺気腫                      d. 無気肺                      e. 肺塞栓

31. 25 歳男性。突然の胸痛と呼吸困難で来院した。頻呼吸で、チアノーゼ を呈している。動脈血ガス分析を行ったところ PaO<sub>2</sub> 55 mmHg、PaCO<sub>2</sub> 65 mmHg であった。酸素をマスクで吸入させても状態が改善しないので、気管内 挿管を行い、通常の換気量で陽圧換気を開始したところ、気道内圧が急激に上昇し、呼吸状態はますます悪くなった。血圧が 60/45 mmHg まで低下、心拍 数が 135/分まで増加した。既往歴、家族歴に特記すべき事なし。 診断を確定し処置するために、ただちに行う検査はどれか。
- a. 胸部 CT      b. 動脈血液ガス分析      c. 心エコー検査      d. 胸部 X 線検査  
e. 気管支鏡検査
32. 感染対策上、空気感染予防策が必要な病原体を 3 つ挙げなさい。  
→結核、水痘、麻疹
33. 65 歳男性、2 ヶ月前より発熱、体重減少、鼻出血、鼻漏、下肢のむくみを認め、来院した。外来血液検査で蛋白尿 3+、尿潜血 3+、BUN 30 mg/dl、Cre 2.5mg/dl、CRP 6mg/dl、PRZANCA 120EU、Hb 10 g/dl、WBC 12000/mm<sup>3</sup> を示し、直ちに入院精査となった。すぐに必要な検査はどれか。二つ選べ。
- a. 鼻より組織生検      b. 腹部造影 CT      c. 腹部動脈血管造影検査  
d. 静脈性腎盂造影検査      e. 腎生検による組織検査
34. 多関節炎をきたす疾患を 5 つ挙げなさい。  
→・関節リウマチ ・SLE ・MCTD ・多発筋炎 ・強皮症  
・リウマチ熱      ・側頭動脈炎      ・大動脈炎症候群  
・ウェゲナー肉芽腫症      ・ベーチェット病      ・成人 Still 病      ・強直性脊椎炎